



発行責任者：秦野市教育研究所長 杉山 哲也  
 発行日：平成25年10月30日  
 秦野市教育研究所  
 住所：秦野市桜町1-3-2  
 電話：0463-81-2125  
 e-mail：k-kenkyu@city.hadano.kanagawa.jp  
 URL：http://www.city.hadano.kanagawa.jp/  
 k-kenkyu/kenkyu.html

## 3本の研究発表と地区の取り組み報告、幼小中一貫教育を語り合うつどいを開催 平成25年度 秦野市教育研究発表会 200名余りが参加

平成25年8月19日（月）、秦野市文化会館小ホールで第31回教育研究発表会を開催しました。調査研究の部では、保健体育研究部会研究員が研究紀要第87集「Let's enjoy sports!! 小中一貫・楽しく学べる授業づくり」の作成の趣旨や球技領域における小学校中学年の「ネット型ゲーム」、小学校高学年、中学校の「ネット型」を中心にまとめた指導資料の効果的な活用について発表しました。

防災教育研究部会からは、研究紀要第88集「子どもの命を守る防災教育」の活用と活動案について、1時間の指導だけでなく、短時間で効果的に指導できる活動例を提示しました。

自主研究の部では、自主研究レポート執筆者である本町中学校の佐久間大幸教諭から、「生徒同士が助け合い、高め合える生徒会づくり」について、その取組の内容や成果、小中のつながりや今後の課題について報告がありました。

研究所では、事後アンケートを出席者の方々にお願いいたしました。その結果は次のとおりでした。

大変満足	満足	どちらとも	不満	未記入
17.5%	62.8%	15.3%	1.2%	3.0%

発表については、概ね80%程度「大変満足」「満足」という回答をいただきました。



幼小中一貫教育を様々な立場から語り合う

また、平成23年度より取り組んでいる幼小中一貫教育について、幼稚園、小・中学校の校長・教頭の代表、教員代表、学識経験者、PTA代表が一堂に会し、会場の方々から意見をいただきながら、語り合うつどいを行いました。

今回の語り合うつどいについて、会場の方々からは「地区ごとに地域性を踏まえた一貫教育を、できることから進めていくことが大切だと思う。」「研究発表の場とは別に、いろいろな立場の方々と意見をかわす機会があると、今後の方向性を考える参考になると思う。」といった感想をいただきました。今後もアンケートの結果を参考に発表会の在り方や発表内容についての工夫を重ね、より満足度の高い発表会を実施していきたいと考えております。

発表者、登壇者の皆様、お忙しい中、準備から本番まで携わって頂き、本当にありがとうございました。



南が丘地区の特色ある取り組みについて話す後藤校長

また、南が丘中学校区子どもを育む懇談会事務局である南が丘小学校の後藤清志校長から南が丘地区豊かな心を育む協議会の取組について、その特色や内容等を報告がありました。

# 小中一貫保健体育研修講座 早稲田大学 吉永武史先生

## ボール運動・球技領域【ベースボール型】の指導のあり方について

平成25年8月23日（金）に秦野市立南中学校の音楽室と体育館で、平成25年度小中一貫教育・保健体育研修講座を開催しました。参加者は、小学校の教員12名、中学校の教員9名。講師には、昨年に引き続き、早稲田大学スポーツ科学学術院の准教授 吉永武史先生をお迎えしました。前半の1時間は音楽室で講義を、後半の2時間は体育館で実技研修を行いました。

ベースボール型の学習は、待つ時間が長いことから十分な運動量が確保できないと思われるがちなことや経験不足による技術的課題を克服するために簡易化されたゲームを取り入れることについて、お話いただきました。



**投げるときの構えについて、指導上の大切なポイントを説く吉永武史先生**

学習指導要領では、従来は種目をベースにカリキュラムが構成されていました。しかし、型による分類となった現行の学習指導要領においては、ボールゲーム領域におけるそれぞれの型のもっている特性や面白さを共通に学習していきながら、多様な球技を楽しんでいくという設計に変化をしてくれています。また、小学校中学年から高等学校までのすべての段階において、ゴール型、ネット型、ベースボール型で構成されています。型の中では「同一型態内において学習成果が転移する」と言われていることを考えると、ベースボール型についても転移が起こることは必然であり、簡易化されたゲームを上手に取り入れて、子どもたちに楽しませることが大切であると言えます。また、中学校段階においては、ソフトボールを取り扱うにあたって生徒の実態に応じて学習内容がより鮮明になるようにゲームの人数を少なくしたり、用具を簡易化したりすることが大切です。そこから段階を追ってオフィシャルなゲームに近づけていくという発想が重要になってきます。さらに、必要な技能を児童生徒に身につけ

せていくためには、基礎的・基本的な内容を身につけて、それを活かしながらゲームの面白さ・深まりを感じさせることが大切です。チームでの課題を解決していく中で、身につけることと考えることのバランスを取った学習過程、単元計画の作成をしていくことが考えられます。

### 投げる構えのポイント ～並進運動と回転運動～

具体的な指導法については、①非投げ手が見えるようになる「紙鉄砲」による指導、②股関節を屈曲させて、軸を後傾させることができるようになる指導、③投げることに焦点をあてた指導など、すぐに指導に取り入れることのできるものや簡易化されたゲームとして、①回転運動を習得するためのフライングディスクを使ったスイングゲームというスキルゲーム、②並進運動を習得するためのボールとバットを使ったボール運びゲームというスキルゲームなどを教えていただきました。

講義の後、簡易化されたゲームやスキルゲームを実際に体験するとともに、運動量を確保するためのゲームについても体験しました。

研修会終了後、先生方にアンケートをお願いしました。その結果は次の通りでした。「単純に見えるがゲームに通じている練習は、子どもたちもすんなり挑戦してくれると思います。何のための練習なのか、子どもたちに気づかせ、一緒に楽しんでやっていきます」

「学年、児童の実態に合わせて、今回のようなルールの工夫などを取り入れながら授業に臨みたいと思います」「全員が参加することの大切さや動くことの楽しさを味わうことができました」といった感想をいただきました。

今回は、ベースボール型の球技領域の指導を中心に研修を行いました。研修会の最後には、参加者からたくさんの質問があり、大変有意義な研修会になりました。今後は、小中一貫教育を見据えたゴール型の球技領域の指導のあり方についても研究していきたいと思



**スキルゲームや簡易化されたゲームに取り組む参加者たち**

# 算数・数学教育研修講座

国立教育政策研究所 笠井健一先生

## 算数・数学科における言語活動の充実を目指して！

平成25年10月2日（水）に秦野市立図書館の視聴覚室で、平成25年度小中一貫教育・算数数学教育研修講座を開催しました。参加者は、市内外小中学校の教員31名でした。講師に国立教育政策研究所の笠井健一先生をお迎えして行いました。

講義の前半は、教科としての目標や学習指導要領改訂の基本的な考え方、算数科の改訂のポイントといったことに触れながら、算数・数学における新学習指導要領の変更点と留意点について伺いました。後半は、関心・意欲を高めたり、数学的な考え方を育てたりする授業や算数・数学科における言語活動の充実とその評価について、問題例を示し、会場の先生方と一緒に考えながら具体的なお話をいただきました。以下に、研修のポイントを示します。



### 「子どもたちに生きる力を身につけさせたい」

従来から行っている「『いかに子どもたちに分かりやすく教えるか』ということを考えて授業を工夫すること」に加え、「『思考力・判断力・表現力』を伸ばす授業」も取り入れて授業を作っていく必要が出てきています。教師が思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を受けてきていないことが多く、自分の授業がうまくいかないことがあります。そこで、「意図的・計画的・継続的」に指導法を学んでいくことが大事になります。このことは、学習指導要領の柱の一つである“基礎・基本を身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力”としての「生きる力」に通じています。自分たちで工夫して見つけて、作ったり、使ったりすることができる子どもたちに育てることを目指すものです。

### 「学習の見直しを立てることと振り返る活動」

第3学年  
57×46の計算をしましょう。

57	
×46	
342	→ くり上がり間違いがある
228	
2522	

  

57	
×46	
348	→ かけ算九九を忘れていているか定着していない
221	
2558	

  

57	
×46	
342	→ 位取り（すらし）を間違えている
228	
570	

間違いを消さずに残しておいて、「自分はこんなところを間違えたんだ」と振り返ることにより、自分で気づいて同じ間違いをしない子どもにします。と同時に、教師は間違いの指摘ばかりでなく、できているところをほめることも大事にしたポイントです。

### 「全国学力・学習状況調査の問題から考える」

赤いテープの長さは120cmです。  
赤いテープの長さは、白いテープの長さの0.6倍です。

「赤いテープの長さは、白いテープの長さの0.6倍です」から、乗法の式に表して数量の関係を図える。

高学年である白いテープの長さが分からないので、白いテープの長さを□とします。

除法の式に表して、高学年（白いテープの長さ）を求める。

$$\square \times 0.6 = 120$$

$$\square = 120 \div 0.6$$

120 ÷ 0.6

赤いテープの長さは 120cmです。  
赤いテープの長さは、白いテープの長さの0.6倍です。  
(1) 赤いテープと白いテープの長さの関係を正しく表している図はどれですか。  
(2) 白いテープの長さを求める式を書きましょう。

小学校算数科の目標として、考えて表現する学習の展開を図ることで、生活や学習に活用する力を身につけさせることがあります。考えたことを書き、読んだり話したりすることで理解を深めます。発表者を含め、児童が発表内容を理解したかどうかが大切です。これからは上の例で示したような問題を1時間の授業でじっくりとどちらの式になるのか、いろいろな側面から子どもに考えさせ、説明ができるようにさせることがとても重要になります。



# 公開講座

「伝承の力を支える文字の学習」

百十二名が参加！

平成二十五年七月二十九日(月)、渋沢公民館で教育研究所公開講座を開催しました。昨年度の国語研修講座に引き続き、今年度は文字についてもっと多くの方々に伝えたいと考え、横浜国立大学教養人間科学部の青山浩之先生を講師にお迎えしました。読み手を意識した文字を書くことの大切さやうかがい、方眼紙を用いた字形を考えながらの実技に、参加した先生方は皆、夢中で取り組んでいました。参加した九十八%の方が、「満足・大変満足」とアンケートに回答しており、「文字の学習の『楽しめるコツ』を学ぶことができました。『姿勢』や『持ち方』のお話で響くものがありました。『実際に読みやすい字を書くための留意点』が楽しく学べただけでなく、子ども達に『書きたい!』と思ってもらせるように生活の中で活かしてほしいことを心がけ、書いて伝えることに楽しさや喜びを感じられるようにしていきたい」など多くの感想をいただきました。皆様からのご意見をもとに、来年度も意義のある公開講座を実施したいと思います。



身振りを交えながら参加者に話す青山先生

# ふるさと秦野検定に

約百八十名が挑戦!

平成二十五年七月二十七日(土)に秦野市立本町小学校と秦野市立鶴巻小学校で、平成二十五年ふるさと秦野検定を実施いたしました。参加者は、小学生・中学生を合わせて、百七十七名でした。一級には四十九名、二級には五十九名、三級には七十八名が挑戦しました。

ふるさと秦野検定は、「はだの」に関する自然・歴史・地理などの分野から合計一〇〇問が出題されました。そのうち八〇%以上の正解で合格になります。

今年度の一級合格者は、三十三名、二級合格者は、二十九名、三級受検者の全員に三級の認定証を渡しました。一級の合格者は、併せて、はだのつ子アワードの受賞になります。平成二十五年十二月二十一日(土)午後三時から本町公民館で市長より表彰される予定です。

来年度も秦野市内在住及び秦野市内の小中学校在学中の小学校三年生から中学三年生までを対象としたふるさと秦野検定を予定しております。来年の六月上旬に受検の案内を配布する予定です。奮ってご参加ください。



3級にチャレンジ



1級合格者は33名

## 教育研究所刊行物が約30%OFFに

教育研究所では、11月3日(祝・日)の市民の日に、野外造形展の本部テントで教育研究所の関係刊行物を市民の日限定で特別値引き販売いたします。定価の約30%OFFです。(With you ありがとうCDを除く)この機会にぜひ、お買い求めください。

また、売り切れていた市制施行50周年を記念して作成・販売されました「子どもの歌」With you ありがとうのCDが増版されました。この機会にぜひお求めください。

NO	刊行物の名称	定価	市民の日
1	秦野ふるさとめぐり	800円	600円
2	秦野の昆虫	1300円	900円
3	秦野の野鳥	1300円	900円
4	写真集秦野市幼稚園のあゆみ	1300円	900円
5	秦野市立幼稚園の歩み	2200円	1500円
6	秦野市教育史第一巻近代史料編	4000円	2800円
7	秦野市教育史第二巻現代史料編	4000円	2800円
8	秦野市教育史第三巻通史編	4000円	2800円
9	理科実験アイディアハンドブック	1800円	1200円
10	With you ありがとうCD	1000円	1000円

お待たせしました!  
With you ありがとうCD再販開始!!